

霜注意報に伴う農作物等の管理対策

平成31年 3月18日

新潟県農林水産部

3月18日11時24分に新潟地方気象台から霜注意報が発表されました。山沿いでは、最低気温が0℃以下となることも懸念されます。

これからの季節は、降霜被害を受けやすいので、下記により農作物等の管理に十分注意してください。

1 野菜

- (1) 降霜が見込まれる場合は、定植作業を延期する。
- (2) すいかのハウス栽培で、定植直後の場合は、夜間保温のため、トンネル内での不織布によるべたがけ等を行う。
- (3) 砂丘地のトンネル栽培ですいか等を定植した場合は、降霜時刻に併せてスプリンクラー散水を行う。
- (4) 加温ハウスでは、温度保持に努めるため、夕方早めにハウスサイドの被覆を下ろし、ハウス内の内張り資材を閉める。
- (5) 無加温ハウスでは、夕方早めにハウスサイドの被覆を下ろし、夜間低温時に必要に応じてストーブ等で加温を行う。
- (6) 降霜後、霜害の程度が軽く生育の回復が見込める場合、液肥の葉面散布やかん注を行い草勢の回復に努める。

2 果樹

- (1) 春先に実施する籾がらや稲わら等によるマルチ敷設は、地面からの放熱を妨げ、凍霜害を助長するため大型連休以降に行う。
- (2) 防霜対策として、専用固形燃料や「せん定枝チップ+灯油」等の燃焼方式を利用する場合は、事前に配置数や延焼防止対策をしっかりと確認するとともに、消防や近隣住民等への必要な連絡手続きを徹底する。
- (3) 防霜ファンは必ず事前の動作確認を実施する。
- (4) 展葉期頃までのいちじくの一文字仕立栽培では、多孔質マルチシートやアルミ蒸着シートで樹体を覆う。
- (5) 無加温ハウスで、夜間から早朝にかけて低温が予想される場合は、保温のため、午後早めにハウスを閉める。また、必要に応じてストーブ等で加温を行う。
また、ビニールの破損箇所を点検補修して保温に努める。

3 花き

- (1) 施設栽培では、施設内が高温多湿にならないよう日中の換気やかん水量等に注意する。
- (2) 施設栽培では、温度保持に努めるため、夕方早めから内張り資材の被覆や循環、加温機やストーブ等で加温する。